

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 志摩市	対談項目1 地方創生の取り組み	志摩市の取り組み紹介	<p>45年後の人口減少時に、志摩市が生き残るためには、約3万人の人口が必要です。そういった先々を見越して、志摩市創生総合戦略をつくり、43の具体的な事業を進めています。今回の地方創生の一番の大元は、人口減を止めること、そして、若者が住みやすい「しごとの強化」、「しごとの創出」であり、これを地方創生加速化交付金を充当して進めています。</p> <p>次に、一次産業も含めた裾野の広い観光関連産業の成長が、地域にとっては何よりも重要です。地域の資源と利益を、地域で循環できるような形で成長させることが重要です。</p> <p>具体的には、伊勢志摩地域の自然環境、文化、食という観光資源を磨いていくために、有償のガイド業を実施する「ガイド業の創出事業」や地域の資源を見つめ直してまちづくりにつなげる「観光まちづくり事業」等を推進しています。</p> <p>加えて、知事からご紹介いただいた東北大学大学院環境科学研究科の古川准教授と連携し、過去を見て、現在を見て、エネルギーの少ないときでも人間が豊かであった、状況をいくらかでも現代に還元できないかと考えていただいています。今回も大王町波切の高齢者の方々から、過去の良きところを聞き出して、現在にマッチングさせる事業をしていただいています。</p>	<p>志摩市の総合戦略についてご紹介いただき、観光産業の裾野が広いものだという認識については、大変重要だと思っています。この4月から我々がスタートした観光の新しい計画のポイントは、観光の産業化であり、観光をお金がかかり循環する産業にしていこうという思いがあります。</p> <p>観光も、単純にイベントをどんどんしていこうというものではありません。例えばものづくりであれば、マーケティングをして、研究開発をして、試作品を作って、市場に出してみ、コスト削減の努力をし、人材育成をしたり、事業環境整備をしたり、というのが産業政策としては当たり前のことですが、観光ではそのようになっていませんでした。観光を産業化し、お金が増えるものにしていこうと我々も考えています。</p> <p>観光の計画においても、この4年間、県としては観光入込客数を一番の目標にするのは止めて、観光消費額を一番の目標にし、加えて消費に直結する宿泊者数等を重要な指標としようとしてきました。</p> <p>観光は小規模事業者の皆様も含めて行っていく産業です。観光の産業化、観光産業の成長を通じた地方創生というのは大変共感できるものなので、しっかり連携して取り組んでいきたいと思えます。</p>
2 志摩市	対談項目2 ポストサミット	地元に対する理解の促進	<p>今回のサミットで世界の要人が来ていただけるまちであるということに、改めて気づくことができ、地方創生をしていく、志摩市の振興をしていくうえで、大きな力になりました。</p> <p>これからまず学校で「なぜ志摩市にサミットが来たのか」、「サミットで何ができたのか」、「そのときに我々は何をしたのか」といったことを教育しながら、子供たちだけではなく大人たちにも、地域全体で自分たちのまちに目を向けてもらいたい。</p> <p>志摩市には近鉄やスペイン村、ホテル業など大きな企業があります。できれば将来的には市に営業課をつくり、こういった企業と連携して、地方の方が動くための手管を知りたいと思います。</p> <p>もう一つは、まず、地元の職員が地元を理解することが大事です。志摩市5町が合併前に作った町史があります。町史を全部ひも解いて、もう一度まちが見える、人に語れる、そういった人材づくりを職員から始めてみたい。</p>	<p>志摩市民のみならず、三重県民全体が改めて三重県のことを知る機会になりました。例えば、この志摩観光ホテルで行われたワーキングディナーで、松阪牛のフィル肉の横に添えられたわさびは、大台町で作られたものでした。宮川村でわさびを栽培していることを知っていた方は本当に限られていて、大台町の方でも知らなかったけれども、それによって皆が知ることができました。サミットがあったことで、自分たちの地域の資源を改めて知ることができたということは、非常に大きな財産、レガシーだと思うので、これを共有していく仕組みをとられるということは、大変重要だと思います。</p> <p>まず自分たち自身を知るということについては、昔に「じゃらん」が出した統計によると、自分の地域が好きだという人の割合が多い地域ほど、観光客が多いという相関関係があるようです。つまり、自分たちの地域が好きだということ自分たちの地域をPRしたり、自分たちの地域に来てくれた方をおもてなしすることで、改めて人が来たり、リピートしたりということにつながっていくと思いますので、まずその前提として自分たちの地域を知ること、サミットをきっかけとした取り組みとして、大変ふさわしいと思います。</p>
3 志摩市	対談項目2 ポストサミット	サミットのレジェンド	<p>サミットのときに志摩市民が全員で頑張る力を合わせればできるといふ実績ができたこと、これを我々は知事のようにレガシーと呼んでいますが、今度は志摩市でサミットのレジェンド(伝説)をつくりたいと考えています。三重県のレガシー、開催地のレジェンドを100くらい集めて、この効果をいつまでも残していきたいと思っています。こういったご相談もよろしくお願ひしたい。</p> <p>ちなみに、レジェンドの一つとしては、警官との交流、地域の方々のもてなし、キャメロン首相やEUの委員が志摩の海で泳いだことなど、こういったエピソードがたくさんあります。知事のレガシーの中にレジェンドも含めていただいて、より幅の広い形で伊勢志摩サミットを後世に伝えていきたい。それを伊勢の、三重の、鳥羽の、志摩の地域振興に続けていく、ひいては国全体に続けていく、その辺のご支援とご協力をお願いしたい。</p>	<p>レジェンドをぜひレガシーに加えていただきたい。県もいま県民会議のSNSなどで、意識的にこぼれ話のような形で、海外との関係でなくとも、例えば伊勢市でクリーンアップ活動を始めたあるまちづくり協議会の皆様、そのときに初めて清掃活動をしたけれども、これは良いことだからずっと続けていこうとこの前8月に清掃活動をしてもらったりとか、サミットをきっかけに始まった取り組みがその後も地域の取り組みとして続いていくというような例を、こぼれ話として出させていただきました。</p> <p>レジェンドの中にたくさん志摩市の取り組みを加えて、やっぱり志摩市はご当地だから色々なレジェンドがあるようにしていただきたいと思えますので、我々もしっかり連携していきたいと考えています。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 志摩市	対談項目2 ポストサミット サミット開催地の有効活用	<p>今回賢島にサミット記念館ができれば、こちらへ観光客を引っ張る要因になります。短期間の設置ではなく、できれば永続的に設置をしていただいて、志摩市の発信、三重県の伊勢志摩サミットの発信となる場所にしたい。賢島は近鉄の名古屋や大阪や京都から観光客を連れてきていただける終点、翌日にはここが名古屋や大阪や京都への始発点になります。そういう意味で、できれば三重県の情報発信の基地にしたい。これは志摩市だけではなく、そこにある程度の施設を置いて、伊勢志摩が説明できる、ここに来れば三重県が説明できる、そういうことを考えていますので、その節にはよろしくお願ひしたい。記念に置いただけではなく、三重県民が必ず来たがる場所に、次に国内の方々が来たときに伊勢志摩サミットの姿が見える、ゆくゆくは世界から来た方がここに来れば、日本が見える、三重県が見える施設にしたい。</p>	<p>今年度内までにサミット記念館を賢島に建設するというので、現在準備を市とともに進めています。その中身については色々なミュージアムや記念館等の反省を踏まえて、また行ってみたい、あるいは一度は必ず訪れてみたいと思う記念館にしていきたいと考えています。記念館だけではなく、記念館で展示されているものと賢島のホテル等での展示やPRなどが上手につながっていくような形で民間の皆様にもご協力をお願いし、サミット記念館を活かした取り組みを市と連携して取り組んでいきたいと考えています。</p>
5 志摩市	対談項目2 ポストサミット 伊勢志摩ナンバーの実現	<p>今回サミットが成功し、今注目されている伊勢志摩だからこそ、伊勢志摩ナンバーを実現したい。これは、知事のレガシーを人々の心に焼き付ける刻印だと思います。伊勢志摩ナンバーの導入について、国への働きかけを知事のリーダーシップのもとで一層のご支援をいただきたい。我々も、サミットを開催した自治体として責任を持ってしっかりとやっていきたい。</p>	<p>伊勢志摩ナンバーについては、去る7月21日に、志摩市と伊勢市、鳥羽市と県とで合同で要望に行きました。そもそも、募集自体がないと実現できないので、3回目の募集をしてほしいというお願ひに行っていました。募集が始まってから伊勢志摩ナンバーの実現を働きかけていく必要もありますが、全国的にご当地ナンバーを盛り上げてほしい、もう一度募集をしてほしいという機運の醸成も大事です。我々も全国の仲間働きかけていきますし、市町も横のつながりでしていただいたり、民間企業の皆様や観光協会との横のつながりでしていくことが大事だと思いますので、ぜひ連携して取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>あわせて、平成30年度に図柄入りナンバープレートができます。そのタイミングにあわせて、ご当地ナンバー、伊勢志摩ナンバーが入りけるように要望するのが良いのではないかと、国土交通省からアドバイスをいただいていますので、我々としてもそういう形で汗をかいていきたいと思っています。また、一定の登録自動車数が必要になりますので、そういう部分の連携の調整なども一緒にしていきたいと考えています。</p>
6 志摩市	対談項目2 ポストサミット 地域観光DMOの構築	<p>伊勢志摩地域が三重県の活性化に対してできることは、観光関連産業の振興であり、観光産業を振興させるためには、今までの国内誘客と同時に、海外からのインバウンドをどれだけ誘致するかにかかっています。現在、県を通じ国からのご支援をいただきながら、地域DMOの構築と機能強化に取り組んでいるところです。</p> <p>伊勢志摩地域として、欧州からのインバウンドやアジアの富裕層といったターゲットを絞ったマーケティングを実施して、各地域の地域DMOの取り組みと連動させていくことが理想です。</p> <p>現在、我々の地域の中でも若い方がDMOの萌芽を見せています。スポーツコンベンションのグループではトライアスロンを誘致したり、色々なことをしながら地域の活性化を担っています。また、もう一つは、この地域でダンスサミットのグループが色々な文化活動を行っています。彼らが、いかに行政と組みながらDMOになっていくか。そういったことについてご指導いただきたい。</p>	<p>三重県としても、まず地域版、単独市町または複数市町からなる地域DMOの設立を今年度中に促し、29年度中に三重県のDMOである全県DMO、またそれ以降に必要があれば県を越えた広域DMOの創設に向けて取り組んでいきたいと考えています。市長が言っていたスポーツコミッションや、伊勢志摩観光コンベンションなどをベースとした地域DMOをつくっていただくのは、大変ありがたいことです。</p> <p>今、三重県の中では、大台町の観光協会が地域DMOの登録を済ませています。大台町はユネスコエコパークの認定を受けたということもあり、山や川の自然体験を中心としたDMOという形で進めていただいています。海外ではDMOのような組織は当たり前になっており、三重県としても積極的に地域DMO、全県DMOに取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>三重県の観光審議会委員でもある山田桂一郎さんからまちづくりと連携して、こういう誘客をするからこの地域のこういう人にこういう役割を担ってもらおうとか、こういうところを整備してこうという、まちづくりと連動したDMOの取り組みが大事だとアドバイスをいただいています。まさに地方創生そのものだと思いますので、県としても色々と連携して情報提供や意見交換などサポート、協力をしっかりとしていきたいと考えています。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容	
7 志摩市	対談項目3 伊勢志摩国立公園の活用	国立公園満喫プロジェクト	<p>伊勢志摩国立公園70周年ということで、今回の知事のご努力は本当にありがとうございました。国へも陳情に行っていたらというので、今回の満喫プロジェクトの指名を受け、非常にありがたいです。11月には記念式典に加えて、エコツーリズムがあるということで、ぜひ知事にもご参加いただきたい。</p>	<p>伊勢志摩国立公園協会の皆様や志摩市の皆様も一緒になって、ナショナルパークの指定がされるように熱心に働きかけをしていただいて、本当にありがとうございます。この激戦を勝ち切れたのは、丸川大臣も地域の熱意が非常に大事だとおっしゃっていただいたので、地元の皆様のやるんだという思いが強かったのかと思い、改めて感謝を申し上げます。サミットの直後であったということや、70周年の記念事業を迎える前ということで、ポストサミットや70周年記念事業に大きなはずみがつく選定だったと思っています。</p> <p>一方で選ばれて終わりではなくて、丸川大臣も「選ばれてからがスタートなんです」ということを言われています。たくさんの取り組みをしなければならぬので、できれば今月中くらいにはナショナルパーク推進協議会準備会を立ち上げ、皆様のご協力を得て進めたいと考えています。</p> <p>ナショナルパーク上求められていることは、ビューポイントを選定してそれを保全する仕組みの構築や、地元の大学や企業と連携して地域観光を担う人材を育成する仕組みの構築、バリアフリー観光やWi-Fi無料アクセスポイントの増設など、あるいは一定部分はそのままの自然が残されているような隔絶感を作らなければならないとか、無電柱化とかそういうことも宿題になっています。ここからがスタートです。</p>
8 志摩市	対談項目3 伊勢志摩国立公園の活用	国立公園の魅力向上の取り組み	<p>国立公園を満喫するために、市ではサイクリングツーリズムの確立を地方創生の一環として行っています。今、鵜方の駅前でも、サイクリング自転車の貸し出しをしています。そういったところが先々であれば、欧州等からも来ていただけるような、富裕層に向けたツーリズムを進めていきたいと考えています。そのためには、案内板の設置やビューポイントの設定などが非常に大事だと思います。</p> <p>それにつけても一番大事なのは、サイクリングロードの整備です。ほとんどが県道であり、今回のサミットで大きなところはきれいにしていただいたが、そういったことにもご配慮いただきたい。駅前ではスポーツコミッションが非常に頑張っているの、ご支援をよろしく願っています。</p>	<p>志摩市ではサイクリングフェスティバルや伊勢志摩里海トライアスロンを積極的に開催していただいて、誘客をしていただいています。地域と密着をして、日本スポーツツーリズム機構から表彰されたり、非常に評価が高い大会です。ぜひこれを機にサイクリングツーリズムを進めていただきたいと思います。平成33年の三重とこわか国体でも、トライアスロンの会場地として手を挙げていただいていますので、さらに加速をしていただければと思います。道路管理者として、何かこういふふうにしてほしいということがあれば、ぜひ色々な協議をしていきたいと思っています。</p> <p>広島の尾道はサイクリングツーリズムを頑張っていますので、ポイントで行った店に自転車をかけるラックのようなものが置いてあったり、ジャケットを置くような場所があったりしました。そのような地元の皆様にご協力をいただかなければならないような環境整備も含めて一緒にしていきたいと考えています。</p> <p>スポーツツーリズムの関係では、志摩市に大いに期待しているものの一つが、三重県の観光で積極的に取り組んでいるゴルフツーリズムです。ゴルフツーリズムは富裕層の皆様が大変関心を持っています。志摩市は伊勢志摩サミットで知名度が上がりました、また、大きなゴルフ場もあることから、ゴルフツーリズムにおいて重要な地位を占めていただきたいと期待をしています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9 志摩市	対談項目3 伊勢志摩国立公園の活用	国立公園の価値向上の取り組み	<p>地域の宝を磨きぬく、そして志摩市の宝を見つける、こういうことを地域の方々に協力いただきながら、地方創生、地域の振興を図っていききたいと思っています。国立公園の価値を改めて意義づけることも大事だと考えていますので、その辺についてもよろしくお願ひしたい。</p>	<p>国が今年度、「食と農の景勝地」と「日本農業遺産」という二つの制度を創設しました。食と農の景勝地は、言葉通り「食」と「農業」が繋がった、皆が訪れるべき場所、学ぶべき場所というようなものであり、日本農業遺産は、農業だけではなく林業や水産業で次世代に残していくべき技術や遺産を選ぼうというもので、いずれも農水省で行っています。どちらも県が申請主体になれないので、それぞれ各団体の皆様に頑張ってもらっているところです。</p> <p>食と農の景勝地については、伊勢志摩観光コンベンション機構を取り組みの主体として、「神宮でつなげる伊勢志摩の食と文化の伝承」をテーマに、申請書を国に提出しており、現在審査が進められています。これが選定されるようにしっかり働きかけていきたいと考えています。</p> <p>日本農業遺産については、今回のサミットで多大なご尽力をいただいた三重県真珠振興協議会が「真珠」で、また海女振興協議会が「海女漁」でそれぞれ申請の準備を進めていただいております。県としても万全のサポートをして、これらが選ばれるようにしっかり取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>あわせて、鳥羽志摩の海女漁は県の文化財にしているもので、国の文化財に早くなるように、将来的にはユネスコのところに行けるように、引き続き皆様と協力して取り組んでいきたいと思っています。</p>
10 志摩市	当日項目	台湾への駐在員の派遣について	<p>台湾からの観光客を誘客したい。県は高雄市とMOUを結びました。志摩市は台東県とMOUを結びました。台湾からたくさんの方々に来ていただくために、台湾への駐在員の派遣など、知事はお考えになっているのか。そういった場合に、志摩市も乗ることができないのか、お聞かせいただきたい。</p>	<p>今年の1月に志摩市長とともに台湾を訪問し、志摩市と伊賀市と台東県のMOU(自治体間連携)を結んでいただきました。台東県は台湾の中で最もサーフィンが有名といっても良いところで、観光・文化が非常に盛んなところなので、志摩市とよく似たところを持っている場所です。加えて大学などもあり、若者がたくさんいる非常に良い場所だと思います。台湾との関係を発展させていただくというのは、我々も今最も国際戦略で力を入れているのは台湾ですので、県だけでなく市町における取り組みがさらに進展していくことは、大いに期待をしていますし、台湾政府も期待していると聞いています。</p> <p>駐在員については、台東県は南の方にありますが、県は今、台湾ナンバー2の都市である高雄市の交流協会に、自治体では初めて、去年の4月から職員を派遣しています。交流協会は大使館や総領事館の代わりになるようなものです。新たに駐在を置く予定はありませんが、この職員をフル活用していただければと思います。</p>